

Newsletter

JAPAN SOCIETY OF EDUCATIONAL INFORMATION

日本教育情報学会

NO.149 2014.6.1

〒501-1193 岐阜市柳戸 1-1 岐阜大学総合情報メディアセンターC館内
 日本教育情報学会 運営本部事務局 TEL: 080-9730-1311 FAX:058-293-3384
 E-mail: jsei@gifu-u.ac.jp http://jsei.jp/

第30回年会 8月9日(土)・10日(日) 〈年会テーマ〉「今」にふさわしい学びの環境をつくる

日本教育情報学会第30回年会開催に向けて、多数の方々にご協力をいただきましたことに深く感謝いたします。また、多くの研究発表のお申込みありがとうございました。Newsletter No.148でご案内のとおり本年度の年会は、年会テーマを『「今」にふさわしい学びの環境をつくる』として、8月9日(土)、10(日)京都市立芸術大学を会場に開催致します。

今年度の年会では従来の課題研究に替えて3つのテーマ別セッションを開催し、各セッションのコーディネータがシンポジウムのシンポジストとして登壇することで年会テーマの深化を図りたいと考えております。

シンポジウム及び研究発表をとおして、知識基盤社会の学びの環境はどうあるべきなのか 会員はじめ参加の皆様とともに議論を深めていきたいと考えております。是非多くの皆様が第30回年会にご参加いただけること、そして有意義な議論がなされることを期待しております。

なお、参加申込及び原稿提出がWebからの手続きとなりますので申込方法をご熟読の上、期限内に手続きを行なってくださいますようお願い申し上げます。

多数のご参加心よりお待ちしております。『京都へおこしやす!』



第30回年会実行委員長
 横田 学(京都市立芸術大学)

◆ 参加申込受付中 『受付期限:7月25日(金)まで』

◇ 原稿提出締切日 6月30日(月)まで

◀WEBよりお申込み、ご提出をお願いします▶

◆ 第30回年会 開催要項

期 日：2014年8月9日（土）・10日（日）

会 場：京都市立芸術大学

〈所在地〉 京都府京都市西京区大枝杓掛町 13-6

〈アクセス〉 <http://www.kcua.ac.jp/access/>

〈E-mail〉 jsei-2014@gifu-u.ac.jp

年会ホームページ：<http://lsa-j.org/jsei/nenkai/nenkai30/>

後 援：京都府教育委員会、京都市教育委員会

日 程：（予定）

1日目 8月9日（土）	
9:30 ～	受 付
10:00 ～ 12:00	<テーマ別セッション> ・メディアからのアプローチ 【A教室】 ・方法論からのアプローチ 【B教室】 ・マネジメントからのアプローチ 【C教室】
12:00 ～ 13:00	昼食 理事会・評議員会
13:15 ～ 13:45	総会・学会賞表彰式 【講堂】
14:00 ～ 15:00	<基調講演> 【講堂】 「伝承と協働活動を融合したハイブリッドな学会をめざして」 講演者：林 徳治（日本教育情報学会会長）
15:15 ～ 16:15	<狂言の上演とその伝承> 【講堂】 狂言 演目：「柿山伏」（かきやまぶし） 演者：安東 元、安東 睦郎、山田師久（大和座狂言事務所） ワークショップ：伝統文化の伝承（狂言稽古）
16:20 ～ 17:45	<シンポジウム> 【講堂】 「今」にふさわしい学びの環境をつくる コーディネータ：横田 学（京都市立芸術大学） シンポジスト：本郷健（大妻女子大学）、沖裕貴（立命館大学）、 加藤直樹（岐阜大学）林徳治（立命館大学）、山田師久（大和座狂言事務所）
18:00 ～	懇 親 会 【食堂】

2日目 8月10日（日）	
9:30 ～	受 付
10:00 ～ 12:00	<研究発表 I > 【A教室】教師教育 【B教室】情報教育 【C教室】教育実践 1 【D教室】授業分析・評価 【E教室】教材開発
12:00 ～ 13:30	昼 食
13:30 ～ 16:00	<研究発表 II > 【A教室】教科教育 【B教室】eラーニング 【C教室】教育方法 【D教室】教育実践 2 【E教室】デジタルアーカイブ

◆ テーマ別セッション

現代社会は、新しい知識・情報・技術が、あらゆる領域における活動の基本として重要になる社会、いわゆる知識基盤社会の時代だと言われている。また、少子化・高齢化、国際化、高度情報化などが急速に進展する社会の中で、安心安全な社会の実現、我が国の国際競争力の低下など様々な課題も山積し、近年の価値観の多様化やライフスタイルの変化などにより、教育に対するニーズも多様化している。

このような「今」、皆さんは「学びの環境」と言う言葉から、どのような事を連想されるだろうか。本年会では、年会テーマを『～「今」にふさわしい学びの環境をつくる～』とし、テーマ別セッションでは、『学びの環境』をどのようにするのか(1)ハードウェアの視点から「メディア」、(2)ソフトウェアの視点から「方法論」、(3)人の視点から「マネジメント」の3つのサブテーマを設定し研究討議する。

メディアからのアプローチ

9日(土) 10時～12時 【A教室】

コーディネータ： 本郷 健(大妻女子大学)

現代の教育環境を考えると、eラーニング、遠隔教育やデジタル教科書等、ネットワーク環境など情報通信メディアの開発や整備は必要不可欠のものとなっている。本セッションでは「学びの環境」についてメディアの視点から議論を深める。

➤ MOOCの可能性と課題

福原美三(明治大学)

<概要>

2012年に米国で急速に脚光を浴びたMOOCは、2013年にはヨーロッパでも大きく拡大し、参加大学についてはアジアを含む世界的な広がりのある活動となった。世界全体では登録学習者が1,000万人を超えていると言われ、本格的な継続学習基盤としての可能性が見えてきた。一方、我が国は遅ればせながら2013年10月にMOOC推進団体JM00Cを産学連携により立ち上げ、2014年4月から最初の講義を開講し、本格的にスタートを切った。ここではMOOCの様々な可能性について展望するとともに、直面する課題について考察する。

➤ 好きな先生が私の携帯電話の中に！

手嶋毅志(NPO法人manavee)

<概要>

NPO法人manaveeは、大学受験における地理的・経済的な格差を課題として、有志200名による動画授業を一切の対価無くウェブ上に公開しています。これは、受験勉強リソースを届けるために日本中全ての携帯電話やパソコンをメディアに変えるアプローチです。講師がボランティアであるため、かつてmanaveeを利用した元ユーザーが大学入学後に講師やスタッフとして戻ってくる、ということが全国各地で起きています。ウェブというメディアは、定量的データによる新たな授業研究も可能にしました。授業のどの瞬間に生徒が集中力を失ったか、などのフィードバックに、manaveeの先生はいつでもアクセスできます。

➤ タブレット PC で拓く学びのイノベーション

山本利一（埼玉大学）

<概要>

今後の教育環境を考えると、授業での ICT 機器活用は不可欠である。中でも、今回は、タブレット端末や電子黒板に着目し、それらの効果的な活用について提案したい。タブレット 1 人 1 台と、電子黒板と双方向でやりとりができる学習環境において、e ラーニング、遠隔教育、デジタル教科書など新たな教授方法に対応するための具体的な取り組みを検討したい。

方法論からのアプローチ

9 日(土) 10 時～12 時 【B 教室】

コーディネータ： 沖 裕貴（立命館大学）

教育環境と言うとハードウェアの整備に目が向きがちであるが、そのハードウェアを「いかに活用するか」が課題となる。本セッションでは、アクティブ・ラーニング、協働学習、協調学習、反転学習など教育の方法論から「学びの環境」について議論を深める。

➤ ほんとうにいいの？新しい機器 ～今にふさわしい教育方法・教員研修～

神月紀輔（京都ノートルダム女子大学）

<概要>

電子黒板やタブレット型 PC が小中学校の現場にも導入されつつある。一方では、使い方が分からないなどといった使えない教員も現実に存在している。また、機器に対して学習の即効性を求める教員もいる。本来、教育の機会均等であるはずの義務教育である小中学校の現状を概観しながら、どのように機器を使えばいいか、機器を導入することが本当に今にふさわしい教育になるのか検討する。

➤ 初年次教育における反転学習の試み～高次能力学習型反転学習の可能性を探る～

井上史子（帝京大学）

<概要>

近年、初等・中等教育のみならず高等教育においても注目されている反転学習には、基礎的知識の習得を目指す「完全修得型」と汎用的技能など高次能力の習得を目指す「高次能力学習型」がある。システム化が比較的容易な前者に対し、後者は対面学習において協調学習が中心となるため教員の力量が必要とされる。本発表では、医療系学部における初年次教育において、学生の高次能力の向上を目指した反転学習の試みについて報告する。

➤ アクティブ・ラーニングで求める学習成果の測定と活用

藤本光司（芦屋大学）

<概要>

自主性や主体性という言葉は教育の世界で頻繁に使用されるが視覚化（数値化）できる方法論はあまり見当たらない。そこで、報告者らのグループで開発した「自主性尺度調査」を高校 1 年生の共通科目の授業で全生徒にメタ認知として自己分析させた。入学時の生徒を 3 年間継続して調査した結果、工業高校で必要とされる「独創性」の因子や「合計得点」が一般値より低いことが判明した。そこで、まず、これらの結果を学校教育目標と関連させるとともに学習成果を測る指標とした。次に、本調査の 5 因子を補完型チーム編成（班分け）の基礎データに活用した。さらに、チームによる課題解決型の授業を展開し教育方法の効果を探った。また、3 年間追跡調査結果や留年生の個別変容なども報告したい。

教育環境を支えるのは、勿論教育者としての「人」である。本セッションでは、人を育てる、人を動かす、人を組織する事に関わる、教育行政、教員養成、教師教育などから「学びの環境」について議論を深める。

- IDの考え方を取り入れた効果的で魅力的な授業設計・実施・評価に関する教員養成プログラム
南部昌敏 (聖徳大学大学院)

<概要>

教育方法学の目的は、小学校教諭・幼稚園教諭・保育士に求められる資質能力うち、授業設計・実施・評価に関わる授業実践能力の育成に焦点を当て、それに関する専門的知識と理論及び方法を修得させることである。この科目を受講することで、関連する専門的知識と理論・方法をより深く理解し、それを活かして教育実践場面の問題解決を行うことができる授業力の育成と同僚と協働して学校課題の改善に取り組むことのできる教師力の育成を図ることができる。また、本科目で身につけた専門的知識と理論及び授業設計・実施・評価に関わる授業実践能力は、各教科の指導法に関する各科目の目標達成のための基盤となる。本科目には、ID (Instructional Design)の基本的考え方に基づき、効果的で魅力的な授業設計・実施・評価の方法と教師としての授業力を向上させるための方法が盛り込まれている。

- 各教育委員会・教育センターにおける現職教育の現状と課題
ー 公立学校の教員の現職教育に関するアンケート調査からー
服部晃 (岐阜女子大学)

<概要>

公立学校の教員の任命権者である都道府県・指定都市の教育委員会・教育センターに対して、平成25年3月に教職員の現職教育等に関するアンケート調査を実施し、同年4月中旬には全65教育委員会から回答を得た(回収率100%)。

調査の内容は、①教職生活全体を通じた教員研修体系、②教育委員会・学校と大学との連携協働による現職教育、③教員免許状更新制及び指導改善研修の現状と課題、の3つの分野についてであり、調査結果の分析及び考察を提示することにより、教育行政から教員養成・教師教育など「学びの環境」について議論を深めたい。

- 「学びの環境」をデザインできる創造的な教師
横山隆光 (岐阜県揖斐川小学校)

<概要>

知識基盤社会では人材育成こそが大切であり、力強く生き抜いていける資質や能力を備えた人材の育成に対応した教育が求められる。このような教育ができるのは子どもの可能性を拓く創造的な教師である。創造的な教師であり続けるには、教師自身が主体的に、そして、協働的に最新の専門的知識や指導技術等を身に付け実践していくことが必要である。そのために、学校は管理職が学校の教育目標を具体化し、学校の教育目標の関連付けた研究の方向性を示し、適切な評価を行って、教師の資質能力を高める学び合い・磨き合いの場である情報教育等の研修を充実させて、人材育成のための組織的で計画的な学校経営を行う必要がある。

【基調講演】

伝承と協働活動を融合したハイブリッドな学会をめざして

会場： 講堂

開催日時： 8月9日(土) 14時～15時

講演者： 林 徳治 日本教育情報学会会長、立命館大学教授

日本教育情報学会は、1985年に設立され29年を迎えた。会員数は、設立当初よりは微減はあったものの、多くの不動の会員に支えられ今日に至っている。本学会を支えていただいた会員各位に謝意を表したい。この間、多くの教育現場の実践者を研究者として育成した学会の功績は多大である。

本学会は、元文部事務次官の故木田宏初代会長のもとに産官学より多くの識者が参集し、広く学際的に教育情報に関する教育研究を取り扱い教育実践の重要性を唱えた。その後、後藤忠彦会長により、この理念は継承され、科学技術の進展に伴うデジタル化によるアーカイブや電子教科書、著作権、ICT活用教育等今日的諸題に着目し、有能な会員集団による協働活動を通して発展した。ここに改めて歴代会長への敬意と謝意を表したい。

本講演では、これからの本学会の在り方について歴代の会長による理念の「伝承」と、発展を目指した会員集団による「協働」に焦点を当て再考したい。そこでは、単に学術的な理論に留まらず、本学会で活躍している優れたハイブリッド（伝承・協働）な教育研究者の実践事例を紹介し、彼らの考えや理念を共有することにより、今後会員各位の教育研究活動や、若手教育研究者の人財育成を図る学会の在り方について共に考える契機としたい。

【狂言の上演とその伝承】

「柿山伏」及び ワークショップ

会場： 講堂

開催日時： 8月9日(土) 15時15分～16時15分

演 者： 安東 元、安東 睦郎、山田師久（大和座狂言事務所）

演目：『柿山伏』かきやまぶし

<あらすじ>

東北の羽黒山から来た若い山伏が、奈良の大峰山での修業を終え故郷へ帰ろうと大和路を急いでいる。独り言に「早朝に宿を発ったので咽喉が乾く」などと言いながら歩いていると、見事に熟した柿の実が目に入る。取ろうといろいろ工夫するがうまくゆかない。仕方なしに木に登って手当たり次第に食べだす。

ちょうど其処へ、その柿の木の持ち主が「人が盗み取るので油断がならぬ」と見回りにやってくると、案の定柿を盗み食っている山伏を見つける。見つけられあわてて枝の陰に身を隠す山伏をからかってやろうと、風流心のある畑主は一計を案じる。

今、あの木の陰に隠れたのはカラスじゃ～猿じゃ～鶯じゃ～とからかうと、そのたびに

山伏は擬声を発し擬態を演じるが、とうとう枝から落ちて腰を打ち散々の態で幕。

<ワークショップ>

『柿山伏』の上演後、この演目の稽古（伝統的な文化の伝承）の様子を見て頂きたいと思います。なお、当日会場で狂言の稽古体験を希望される方を募集致します。「我こそは」とお思いの方は、当日是非お申し出ください。

【シンポジウム】

「今」にふさわしい学びの環境をつくる

会場： 講堂

開催日時： 8月9日(土) 16時20分～17時45分

シンポジスト： 横田 学（京都市立芸術大学）

コーディネータ： 本郷 健（大妻女子大学）、沖 裕貴（立命館大学）、加藤 直樹（岐阜大学）、林 徳治（立命館大学）、山田師久（大和座狂言事務所）

今年のシンポジウムは、午前中に開催するテーマ別セッションと連動させ、研究テーマの深化を図りたいと思います。なお、シンポジウムでは、3つのテーマ別セッションのコーディネータに加え学会会長、さらにシンポジウムに先立ち上演する狂言に関わり伝統文化伝承の視点から狂言師の山田師久氏にもシンポジストとして登壇して頂き、「今」にふさわしい学びの環境とはどのようなものか、またどのように創っていくのか討議するとともに、会場の皆さんと共に探りたいと思います。

◆ 研究発表 I

教師教育

10日(日) 10時～12時 【A教室】

座長： 小川勤（山口大学）、久世均（岐阜女子大学）

- タイ国の大学におけるFDに関する実態調査およびFD教員研修の実践
林徳治（立命館大学）、黒川マキ（大阪学院大学）
- 共通教育カリキュラム改革後の成果と課題
小川勤（山口大学）
- 学校価値について
北川敬一（立命館大学大学院生）
- 女性図書館員・情報担当者のライフコースとキャリア形成
石川敬史（十文字学園女子大学）、青木玲子（国立女性教育会館）、市村櫻子（東京大学附属図書館）、黒澤あずさ（日本女性学習財団）、櫻田今日子（国立女性教育会館）
- 立命館大学における大学院・若手研究者キャリアパス支援
沖裕貴（立命館大学）、林泰子（立命館大学）
- 教育委員会との連携による教員の実践的資質能力向上システムの構築の概要
久世均（岐阜女子大学）、齋藤陽子（岐阜女子大学）、佐々木恵理（岐阜女子大学）
- 理論と実践のつながりを重視した「教育方法論」の取り組み
ー保育における三方向コミュニケーションの学習を通してー
真下知子（京都文教短期大学）

情報教育

10日(日) 10時～12時 【B教室】

座長： 加納寛子（山形大学）、加藤由樹（相模女子大学）

- 地域社会における「ネット社会と人権」に関する情報モラル教育(2)
林泰子（立命館大学）

- タイにおける情報リテラシー教育の現状と課題
加納寛子（山形大学）、
- 中等教育に於けるソーシャルメディア法的リスク学習ツールの有用性
馬上宗一郎（安田女子大学）
- 中学校・高等学校における情報教育の体系化に向けた教科書の調査及び分析
—情報モラル教育に着目して—
縣正樹（筑波大学大学院生）、臼坂高司（茨城大学）、工藤雄司（茨城大学）
- 学習者の情報教育に対するカリキュラムイメージの時系列的な変遷の検討
本村猛能（群馬大学）、森山潤（兵庫教育大学大学院）、工藤雄司（茨城大学）
- 短期大学生のパスワード管理に関する報告～ICT教育の推進に向けて～
阿久津毅（昭和学院短期大学）
- モバイルメールにおける依頼と断りに関する感情伝達と感情方略に関する分析
加藤由樹（相模女子大学）、加藤尚吾（東京女子大学）、千田国広（東映アニメーション株式会社）
- 日本とタイの高等学における情報教育の比較研究
宇都宮由佳（青山学院女子短期大学）、本郷健（大妻女子大学）、本村猛能（群馬大学）

教育実践 1

10日(日) 10時～12時 【C教室】

座長： 山本利一（埼玉大学）、北村光一（呉工業高等専門学校）

- 主体的な学びの支援を目的とした協調学習に関する実証研究
—大学生の情報処理科目を通して—
若杉祥太（滋賀県立堅田高等学校）、小柴慶太（株式会社富士通エフサス）、林徳治（立命館大学）
- 高等教育における数学科の教授・学習に関する比較研究
-呉工業高等専門学校と中国東北大学を対象として
北村光一（呉工業高等専門学校）、林徳治（立命館大学）、張周宇（中国東北大学）
- 3Dプリンタによる教育実践からみえる可能性と課題
増山一光（神奈川県立神奈川総合産業高等学校）
- 遠隔協働学習を通して育む授業デザインの力
小林祐一（沖縄女子短期大学）、佐藤和紀（東京都北区豊川小学校）
- ソーラーカーを活用した教育活動の研究
藤本光司（芦屋大学）、盛谷亨（芦屋大学）、長谷川友樹（京都市立洛陽工業高等学校）
- ICT機器を活用し、道徳の時間と関連付けた情報モラルの授業の推進
横山隆光（揖斐川町立揖斐小学校）、加藤直樹（岐阜大学）、興戸律子（岐阜大学）、及川浩和（中日本自動車短期大学）、山崎宣次（中部学院大学）
- Scratch・WeDoを活用した小学校におけるプログラム学習の提案
山本利一（埼玉大学）、鳩貝拓也（埼玉大学生）、弘中一誠（埼玉大学大学院生）、佐藤正直（板橋区立赤塚第3中学校）
- タブレット端末の利用を想定した被服教材の作成
中島美恵子（岐阜女子大学大学院生）

授業分析・評価

10日(日) 10時～12時 【D教室】

座長： 武田正則（仙台高等専門学校）、相澤崇（琉球大学）

- 授業行動分析装置の開発とその活用（2）
安藤久夫（岐阜女子大学）、水野伸子（岐阜女子大学）、吉田昌春（岐阜大学）、及川浩和（中日本自動車短期大学）
- 復興支援プロジェクト形成におけるアクティブラーニングの展開
～学習ファシリテーション導入の方策と課題～
武田正則（仙台高等専門学校）
- 情報機器使用時の健康維持意識及びネット依存傾向に与える個人内特性の影響
阪東哲也（兵庫教育大学）、森山潤（兵庫教育大学）
- 重度知的障害児の ICT 利用教育における学習モデル
佐原恒一郎（千葉県立つくし特別支援学校）
- 障害のある児童生徒のためのデジタル教科書モデルの試作と検証
金森克浩（国立特別支援教育総合研究所）、梅田真理（国立特別支援教育総合研究所）、
田中良広（国立特別支援教育総合研究所）、棟方哲弥（国立特別支援教育総合研究所）、
土井幸輝（国立特別支援教育総合研究所）、武富博文（国立特別支援教育総合研究所）、
横尾俊（国立特別支援教育総合研究所）、岡山将也（株式会社日立コンサルティング）
- 映像制作・発信実践における意識変容の分析
加藤亮介（十文字学園女子大学）、安達一寿（十文字学園女子大学）
- 高等学校共通教科「情報」の検定教科書の特徴分析
相澤崇（琉球大学）、
- 教職課程の情報学習成果物についてのループリック型評価の検討
坂口隆康（関西国際大学）

教材開発

10日(日) 10時～12時 【E教室】

座長： 白川雄三（大阪学院大学）、大杉成喜（熊本大学）

- 動作検知プログラム motion を利用した小学校理科の教材開発
中澤茂忠（長野市立松ヶ丘小学校）、
- アクティブ・ラーニング科目における学士力の養成
白川雄三（大阪学院大学）、高橋誠（大阪学院大学）、金崎暁子（大阪学院大学）
- eラーニングシステムを用いたデジタル・アーカイブ学習教材の開発
塩雅之（常磐大学）、町英朋（常磐大学）、坂井知志（常磐大学）、岡嶋宏明（常磐大学）
- デジタル・アーカイブ技法を活用した理科教育用デジタルメディアの開発について（5）
佐藤正明（岐阜女子大学）、稲福純夫（沖縄女子短期大学）、後藤忠彦（岐阜女子大学）
- デジタル・アーカイブ技法を活用した理科教育用デジタルメディアの開発について（6）
稲福純夫（沖縄女子短期大学）、小林祐一（沖縄女子短期大学）、佐藤正明（岐阜女子大学）
- 視覚障害をあわせもつ重度・重複障害児の教材開発
大杉成喜（熊本大学）

- 全学的教育基盤システムとしての LMS の活用支援と普及過程モデルの分析（3）
— 教員の利用歴、授業形態による利用状況および普及の問題点—
興戸律子（岐阜大学）、加藤 直樹（岐阜大学）、村瀬康一郎（岐阜大学）、伊藤宗親（岐阜大学）
- 学校で使えるタブレット教材の作成
坂本勝（株式会社マイクロブレイン）、坂井岳志（世田谷区立八幡小学校）、竹中章勝（京都光華中学校・高等学校）、片柳木の実（調布市立石原小学校）、小山万作（世田谷区立弦巻小学校）、杉福田晴一（並区立天沼小学校）、竹谷正明（狛江市立第五小学校）

◆ 研究発表Ⅱ

教科教育

10日(日) 13時30分～16時 【A教室】

座長： 本郷健(大妻女子大学)、若杉祥太(滋賀県立堅田高等学校)

- 特別支援教育におけるタブレット端末活用についての研究—国語科授業における音読指導に関する一考察—
河野文子(筑波大学)
- 『守山市全図』の作成と活用した授業実践
奥村信夫（守山市教育委員会）
- 空間把握能力及び学習者の主体性向上を目的とした授業実践～教具「立体4目並べ」を使って～
木原裕紀（大阪府立芦間高等学校）、若杉祥太（滋賀県立堅田高等学校）、林徳治（立命館大学）
- 中学校数学科における表現力向上を目的とした授業実践（1）—ふきだし法の活用を通して—
納庄聡（京田辺市立田辺中学校）、河崎拓郎（川西市立清和台中学校）、若杉祥太（滋賀県立堅田高等学校）、林徳治（立命館大学）
- 中学校数学科における表現力向上を目的とした授業実践（2）
—ふきだし法の活用による効果の検証—
河崎拓郎（川西市立清和台中学校）、納庄聡（京田辺市立田辺中学校）、若杉祥太（滋賀県立堅田高等学校）、林徳治（立命館大学）
- 高校生の国語に対する苦手意識に関する調査研究
野田千裕（滋賀県立東大津高等学校）、若杉祥太（滋賀県立堅田高等学校）、林徳治（立命館大学）
- 共通教科「情報」における情報的な見方・考え方を育成するカリキュラムの基礎的研究
本郷健（大妻女子大学）、本村猛能（群馬大学）、山本利一（埼玉大学）
- これからの日本の英語教育に関する考察 ～グローバルイングリッシュの存在をふまえて～
木村廣多（龍谷大学生）、若杉祥太（滋賀県立堅田高等学校）
- 異なる校種での授業で利用可能な情報活用能力を育てる教材の開発と評価
小原久美（鶴見大学附属中学校・高等学校）、比嘉俊也（昭和第一高等学校・立川女子高等学校）、元木章博（鶴見大学）、片岡祥二（府中市立若松小学校）
- ICT 機器活用と授業—効果的な提示手法を求めて
齋藤由紀（大和大学）

- ビジネスゲームにおけるフィードバックが学習状況や授業の成績結果に与える影響
立野貴之(松蔭大学)、加藤尚吾(東京女子大学)、加藤由樹(相模女子大学)
- College Analysis による幾何シミュレーション
福井正康(福山平成大学)
- HTML5による3D Graph Viewer
尾崎誠(福山平成大学)、福井正康(福山平成大学)
- eラーニングによるプログラミング学習システムの開発
河野敏行(岡山理科大学)、大西荘一(岡山理科大学)
- ティームティーチングにおけるタブレット端末活用についての研究
～特別支援教育における音楽科授業に関する一考察～
藤田美佐緒(香川県立香川丸亀養護学校)、藤田美佐緒(香川県立香川丸亀養護学校)、亀山友紀(香川県立香川丸亀養護学校)、金森克浩(国立特別支援教育総合研究所)
- タブレット端末を活用した美術学習の課題と可能性(1)-中・高等学校の教育実践の視点から-
張亜寧(京都市立芸術大学大学院生)、横田学(京都市立芸術大学)、谷口由美子(京都市立芸術大学)
- タブレット端末を活用した美術学習の課題と可能性(2)-中・高等学校の教育実践の視点から-
谷口由美子(京都市立芸術大学)、横田学(京都市立芸術大学)、張亜寧(京都市立芸術大学大学院生)
- 教師による電子教材作成を可能とするソフトウェアの設計に関する考察
都築鉄平、久我瞳(南山大学大学院生)
- 学校におけるタブレット活用の必要条件と課題
坂井岳志(世田谷区立八幡小学校)、竹中章勝(京都光華中学校・高等学校)、片柳木の実(調布市立石原小学校)、小山万作(世田谷区立弦巻小学校)、坂本勝(マイクロブレイン)、福田晴一(杉並区立天沼小学校)、竹谷正明(狛江市立狛江第五小学校)
- 「電子黒板を中心とした一斉提示装置の活用のために」
片柳木の実(調布市立石原小学校)、福田晴一(杉並区立天沼小学校)、坂井岳志(世田谷区立八幡小学校)、小山万作(世田谷区立弦巻小学校)、竹中章勝(京都光華中学校・高等学校)、坂本勝(マイクロブレイン)、竹谷正明(狛江市立第五小学校)

- 情報環境の社会的進展を重視したユーザビリティの高い新たな教育環境の可能性に関する提案
陳那森(関西国際大学)、山下泰生(関西国際大学)
- 古典籍、古文書、洋稀観本等のデジタル化ガイドライン
谷口知司(京都橘大学)、猪股謙吾(NPO法人コンサウエル)、白川雄三(大阪学院大学)、藤本光司(芦屋大学)、林徳治(立命館大学)

- 沖縄修学旅行のための教材の方向性（２）
林知代（岐阜女子大学）、加藤真由美（岐阜女子大学）、加治工尚子（岐阜女子大学）
- タブレット PC を活用した授業の協働性と学びに対する意識
及川浩和（中日本自動車短期大学）、加藤直樹（岐阜大学）、横山隆光（揖斐小学校）
- 大学における情報教育手法の検討 - 能動的学習へ向けた改善の試み -
石野邦仁子（淑徳大学）、松山恵美子（淑徳大学）
- 小学校通知表所見の言語分析による教員の力量形成について
山崎宣次（中部学院大学）、掛川淳一（兵庫教育大学大学院）、小川修史（兵庫教育大学大学院）、加藤直樹（岐阜大学）、興戸律子（岐阜大学）、森広浩一郎（兵庫教育大学大学院）
- 大画面表示を想定した教材の開発
小山万作（世田谷区立弦巻小学校）
- 英語運用能力向上と ICT 活用を図る海外研修事前授業の計画
：協同学習型プロジェクトからスタートする国際交流プログラムの提案
又吉斎（沖縄女子短期大学）
- 学生を対象としたウェブアンケートにおけるリマインダの効果について
森雅生（九州大学）、大石哲也（九州大学）、高田英一（九州大学）
- 基礎学力の定着を図る小学校算数学習プリントの整備と利用方法について
瀬ノ上裕（岐阜女子大学）、佐々木恵理（岐阜女子大学）、長尾順子（沖縄県教育庁）、宮城卓司（沖縄市立室川小学校）、新垣英司（北谷町立浜川小学校）、眞喜志悦子（岐阜女子大学）、加藤真由美（岐阜女子大学）、大木佐智子（岐阜女子大学）

教育実践 2

10日(日) 13時30分～16時 【D教室】

座長： 庭井史絵（慶應義塾普通部）、松本宗久（大和大学）

- 「社会人基礎力」の育成を目的とする教科『地域貢献演習』の展開
川田博美（名古屋女子大学短期大学部）、稲吉由味子（愛知工科大学）、千葉みどり（地域貢献ボランティア協会）
- 教科教育のなかで行われる「図書館利用指導」の状況Ⅱ
－教師用指導書の記述を手がかりとした分析－
庭井史絵（慶應義塾普通部）
- 集団宿泊の行事における学校と旅行先の一連の学びを支援するタブレットPCの活用
大澤秀行（岐阜大学教育学部附属小学校）、松井徹（岐阜大学教育学部附属小学校）、西野美佳（岐阜大学教育学部附属小学校）、藤井祐矢（岐阜大学教育学部附属小学校）、大竹秀典（岐阜大学教育学部附属小学校）、加藤直樹（岐阜大学）、今井亜湖（岐阜大学）
- デジタルアーカイブの教材利用と集合保存について
加藤真由美（岐阜女子大学）
- 反転授業のためのデジタル学習プリントの開発
齋藤陽子（岐阜女子大学）、久世均（岐阜女子大学）
- ネット上に置かれた資源を活用して技術・知見を独習する試みの広がりについて
松本宗久（大和大学）

- ものづくりを通じたコミュニケーション演習が主体性におよぼす効果（2）
堀木実（京都市立洛陽工業高等学校）、長谷川友樹（京都市立洛陽工業高等学校）、照田昇（京都市立洛陽工業高等学校）、牛田豊嗣（京都市立洛陽工業高等学校）、藤本光司（芦屋大学）
- ツイキャスを活用した遠隔教育に関する授業実践
伊藤大河（学習院大学）
- e-Learning の教育の質を上げる VOD システム-LMS「MOMOTARO」において-
酒井寛門（岡山理科大学大学院生）、大西荘一（岡山理科大学）、河野敏行（岡山理科大学）
- 自主性尺度調査を活用した通級指導教室との連携
小澤俊介（芦屋学園中高等学校）、藤本光司（芦屋大学）

デジタルアーカイブ

10日(日) 13時30分～16時 【E教室】

座長： 坂井知志(常磐大学)、井上透(岐阜女子大学)

- 米文学研究パーソナル学問史 オーラルヒストリーのデジタルアーカイブ化 2
三宅茜巳（岐阜女子大学）、林知代（岐阜女子大学）
- 博物館活動のデジタル・アーカイブ化に向けた取り組み
～調査研究活動の過程を記録する方法の検討～
有田寛之（国立科学博物館）、内尾優子（国立科学博物館）、濱村伸治（国立科学博物館）
- 地域の記憶を映像化するメディアミックス型公開実践法の評価と課題
前川道博（長野大学）
- 天井画の主題を中心とした関連資料の収集について
田中恵梨（岐阜女子大学）
- 博物館総合調査から見た博物館 ICT の現状と課題
井上透（岐阜女子大学）
- 震災デジタルアーカイブとガイドライン
坂井知志（常磐大学）、塩雅之（常磐大学）、町英朋（常磐大学）
- 案山子のデジタルアーカイブ web ページにおける各資料の提示方法について
都築直斗（岐阜女子大学大学院生）
- データベース運用上の安全性に関する研究
木下昭一（教育ネット研究所）

発表者の方へ

◎WEB上の原稿提出フォームからお申込みください。

<原稿提出方法>

①発表申込みをされた方

5月2日(金)～5月9日(金)の間に、『発表の可否』をメールで連絡いたしました。『発表の可否』が届いていない場合、または本誌“研究発表Ⅰ・Ⅱ”に発表の掲載がない場合は、年会事務局までご連絡下さい。

②発表を可とされた方

年会HP「原稿提出方法」より執筆要項をダウンロードしていただき、ご参照ください

③原稿の提出について

枚数は2枚とします。原稿は「年会論文集」の版下の形で、年会HP内の「原稿提出方法」をご確認の上、「原稿提出フォーム」よりデジタル原稿(PDFファイル)で年会事務局にご提出ください。

原稿提出受付期間 6月1日～6月30日(月) 深夜12時(締切厳守)

入力いただいたメールアドレス宛てに『申込み完了メール』が送信されます。

申込締切日<7月25日>を過ぎた場合は、当日受付となります。その場合、参加費は当日扱いとなります。

◆ 参加料

- ・会員<事前申込> 参加費 3,000円
- ・会員<当日> 参加費 4,000円
- ・非会員 参加費 4,000円

◆ 年会論文集代 3,500円

◆ 懇親会費 5,000円

【振込先】

銀行名 三井住友銀行
名義 日本教育情報学会
支店名 京都支店
種別 普通預金
口座番号 9028691

-参加申込み手順-

参加費等振り込み

Web参加申込みフォーム
に必要事項記入

送信

申込完了メール受信

申込締切日：7月25日(金)

※年会に参加されないで論文集購入を希望される方へ 《郵送申し込みについて》

年会に参加されない方で、論文集を購入希望の場合は、上記振込先へ論文集代をお振り込みのうえ、年会HP内の「参加申込」にあります「論文集郵送申込フォーム」よりお申込みください。年会終了後に論文集を送付します。

●論文集：4,000円(本体、郵送費等を含む)

●論文集郵送申込期間：6月1日(日)～7月25日(金)深夜12時

◆ 昼食について

大学内にあります食堂及び購買がご利用いただけます。また、大学近辺にはコンビニや食堂等があります。

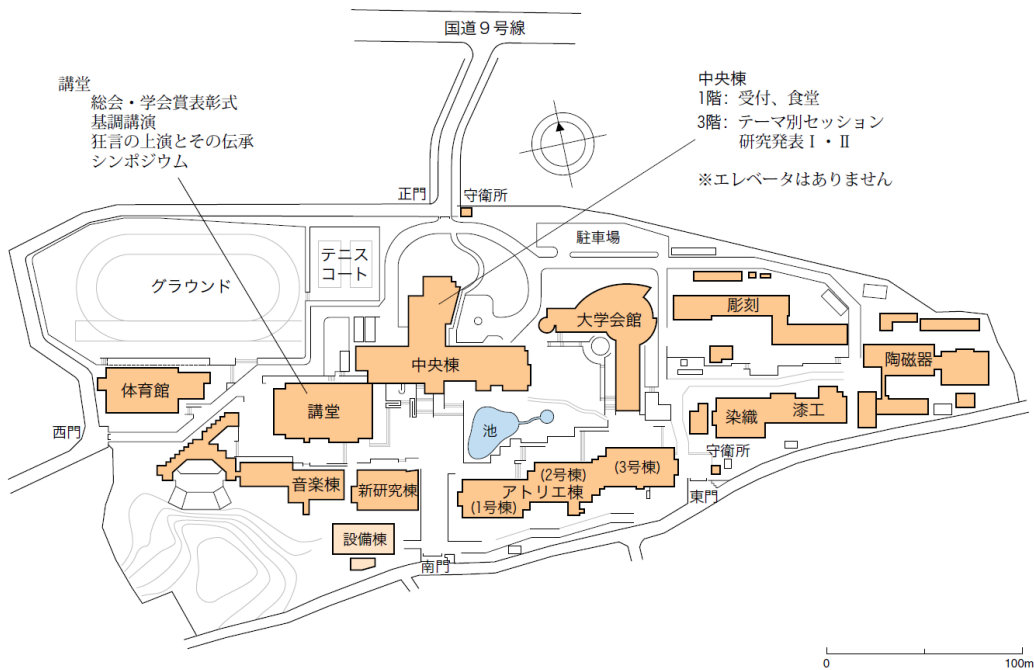
◆ 宿泊について

宿泊については、各自で手配していただきますようお願いします。

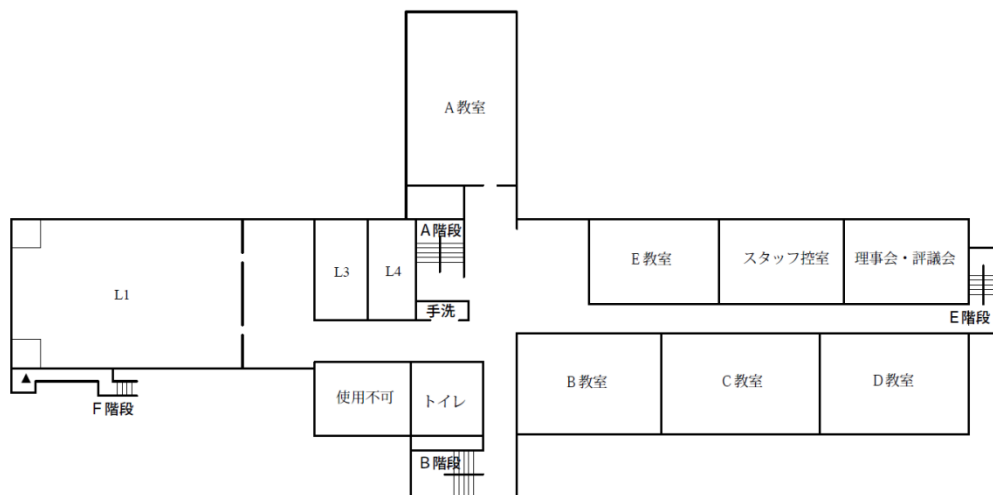
※京都市内のホテルは、大変混み合いますので、早めの予約をお勧めします。

◆ 発表会場

<会場全体図>

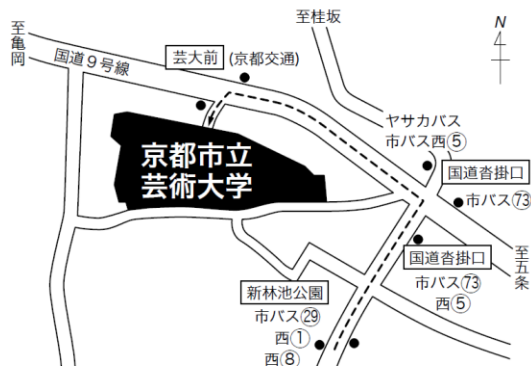


<中央棟 3階>



※ L1, L3, L4 は、休憩や食事等、ご自由にお使いください。

◆ 会場アクセス



<電車・バス>

◇ JR 京都駅から

C2 のりばで京阪京都交通バス 2・14・28 系統に乗車、芸大前（約 45 分）で下車。バス停から徒歩ですぐ。

◇ 阪急桂駅から

京阪京都交通バス 1・2・13・14・25・28 系統に乗車、芸大前（約 20 分）で下車。バス停から徒歩ですぐ。

◇ JR 桂川駅・阪急洛西口駅から

京阪京都交通バス 11A 系統（京都成章高校前行き）に乗車、芸大前（約 15 分）で下車。バス停から徒歩ですぐ。

<自動車>

大学構内には、駐車場があり、当日ご利用いただけます。自動車でお越しいただく場合は、京都縦貫自動車道(大山崎～篠)を進み、有料道路大原野 I C より 5 分です。

年会事務局 お問合せ先

日本教育情報学会 第 30 回年会実行委員会

京都市立芸術大学 美術学部 横田研究室

<E-mail> jsei-2014@gifu-u.ac.jp

年会ホームページ : <http://lsa-j.org/jsei/nenkai/nenkai30/>